解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（4・下）
――李健三さんへのインタビュー記録――

藤永　壯／高　正子／伊地知紀子／鄭　雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本　拓／塚原理夢／李　陽子

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (4) —Part II—
—An Interview with Lee Geonsam—

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, TSUKAHARA Rimu, LEE Yangja

3・1から4・3，6・25へ（続）

《いとこたちの死》

――あの，新村（シンチョン）のいとこの方々がお亡くなりになったということでしたが，どうしてなのかという……。

李：ああ，あれー。そうそう，宗家（クンジプ）の。結局，私がそういうふうに［城内に］来てしもた後で，全州李氏（チョンジュイシ）の連中がみんな李徳九（イドック）と山こもったんか，新村（シンチョン）でやったんか分からんけど，その中にうちのその，いとこの兄さん，小学校の先生やってましたわ。それと，その妹の旦那いうのんも，これは隣，隣の咸徳（ハムドク）いうとこのね，小学校の先生やってましてん。そら，立派な男前の青年やったけどね，今でも顔覚えてるけども。で，［父方の伯父には］子ども3人でしょ，それにその，妹には赤ちゃんもおったわね。で，その下に結婚してない弟がおったんですわ。そやから伯父（クナボジ）［父の兄］のとこは男二人，娘一人，娘の旦那とその間の孫とね，たぶん子どもはあの時，一人やったと思うんやけどね。

平成19年6月21日　原稿受理
大阪産業大学　人間環境学部

それがみな殺されてますねん。まあ，どういう形で殺されたんかは，それは……聞いた覚えないんやけど。聞いてても忘れたかも分からんのやけども……。その長男の嫁が，子どもを一人産んで，その，隠れたらしいですねんね。どっかの誰か隠してくれたんか，赤ちゃん連れて，どっか床下で赤ちゃんの口押さえて，ちょうど沖縄のあれと一緒ですわね。そういう形で，その，その……いとこの，ま，こっちにしたら義姉（ねえ）さんなるけど，その子どもと……だけ助かりましたわね。うちの宗家（クンジプ）は。

張：［従兄の嫁は］今，済州島にいてはる……〈数名：「へえー」〉。ここのお義母（かあ）さんがね，私が言い伝えで聞く分には，ものすごい立派な人たちだったって言うてました。「もったいない，あんな人ら死なして」って……。

李：だから，うちの母親は自分の子だけ囲うてね，で，自分の旦那の兄さんの子どもらね，あの，知らんぷりするはずはないんですよ。ましてや，２番目の息子［李さんの次兄］，縁故疎開で戦時中こっち［済州島］送った時ね。一人だけ新村（シンチョン）で，その下の息子に意地悪されたらしいねんけども，それ見て上の，小学校の先生やってた兄さんはね，自分の弟，すごくね，叱ったりしてね。「一人で親元離れて来てる兄弟，なんでいじめんねん」いうことで，自分の弟，怒ってくれたりしたいうことでね。江原道（カンウォンド）の兄さん［次兄］言うてました。すごく，学校の先生やって，私ら行った時も担任しとったし，ほら，サッカーもうまかったし，ほら男前やし，ほんまにパーフェクトな兄やったし。その妹の旦那いうのも咸徳（ハムドク）の小学校の先生も，ほら背はあった，男前，立派な，ほらねえ……（間）……きれいに。

張：惜しい人みんな死なした，言うてねえ……よう嘆いてはったからねえ……。

――いつごろ亡くなったということを知らはったんですか？　それは，新村（シンチョン）におられたお兄さんが城内（ソンネ）に移られた後ですよね。

李：もちろんそうです。

――何で分かったんですか？　亡くなられたっていうのを。

李：いや，そんなんは，しょっちゅう，２時間，２時間で歩いて何する，城内（ソンネ）までやったらね。ほんで，そんなんやっとっても学生らは，あの，学校みんな通ってましてん。

――亡くなられたいとこの兄さんたちのお葬式とかは，あったんですか？

李：いや，おそらく私ら行ってませんわ。４・３事件（ササムサコン）の時は，葬式なんて，そんなん，したとこなかったん違います？

――じゃあお墓なんかはどんなになってるんですか？

張：今残ってる，お義姉（ねえ）さん［従兄の嫁］が。

李：あ，そうそうや。

張：お義姉（ねえ）さんがね，孫，息子一人連れて，その方が全部案内してくれてね。先祖の墓から，山に，この山には誰のん誰のん誰のん，言うてね，全部案内してくれてね。

――それは新村（シンチョン）の近くにあるんですか？

張：新村（シンチョン）の近くでしたね。だから今，共同墓地になってからは分かりやすくなりましたけどね。それまでにね，私が行ったのは昔でしたから。20年くらい，なる？　お父さん？

だからね，全部山から降りて来ながらね，一番上の先祖から順番にね，こうして。その時に，その亡くなったいとこさんのもね，それもお参りしてね。だから苦労しはったかと思いますよ，あの子ども連れてね。で，その子どもが，またお嫁さんもらって。またその孫がぎょうさん出来たからよかったけどね。

――張さん，お義父（アボジ）さんの祭祀（チェサ）は，ここで？

張：義父（アボジ）の法事だけは，私と20年一緒に暮らしましたので。私が死んだら長男さんの家で義父（アボジ）の法事をしてくださいとお願いしております。

――ここで……？　長男じゃなくて？

張：長男さんのところでお義母（かあ）さんの法事をやってたんですけど，それを江原道（カンウォンド）の次兄の家へ持っていって，で，お義父（とう）さんは，私とずっとお嫁に来てからずっと一緒に暮らしてましたので。やっぱり，すぐに長男さんとこ持って行くのがつらくて，ここでします，いうことで。で，長男さんには，ここの長男さんには息子さんも二人いますしね。いずれはそっち持って行くんですけどね，うちは男の子がないですので。女ばっかり3人ですのでね。

《紗羅峰の銃殺死体》

李：共産国にしようと思って，済州島（チェジュド）でもああいう具合に，それに合わせて。そやけど，済州島（チェジュド）みたいな，何が困って共産国にならなあかんの。ほんまに，徳九（トック）のバカはね。食べもん，どこへ行ってもゴロゴロしていてね。海行ったら食べもんだらけですやんか。

私ら，学校夏休みなったら家おりませんよ。朝，日昇る前にご飯と味噌だけ持ってね。紗羅峰（サラボン）越えますねん。裏っ側行ったら灯台あるのん知ってます？　灯台の裏っ側に階段

ずっとついてますねん。その下，下がったら誰も行かんとこですねん。そこ行ったら，たまに海女さんが採ったもん，隠しに来たりする場所やけどね。朝から日暮れるまで，そこで水は湧いて出るしね，行きもって豆の葉っぱちぎっていくんですよ。ほんだら，魚捕って味噌に付けて，水はそれ，漢拏山(ハルラサン)[の]雪解け水ね，湧き出よるし。魚なんて，海1回入ったら，2時間くらいモリもって，私ら小(ち)っさかったから何やけど，うちのその兄らの連中はね，1回わーっと，モリ持って出て，2時間ぐらいぐーっと海岸沿いに，突きもって，タコやいろんなん突きもってね。ほんで戻って来たん見たらね，腰のところに，麻ひもでこーんな長いね，ひも垂らすんです。そこ，こうエラからみんな突いてね，串刺ししたやつ，ぐーっと持ってきて引きずり上げてからね，ほんで家持って帰ったり，市場持って行って売ったり。

ほんであの，岩場行ったら，こう［海女さんが］みんな隠してね，置いてあるけれども，そんな全部取り放題。そやけど，それみんなごそっと取って行って，どうのうこうのじゃありませんやん。自分ら食べるもんしか食べんからね。そんなところで何でそんな共産党どうのこうのね。

あれは，そうか。あの，4(サ)・3(サ)事件(ムサコン)の時やろね……，あの。

張：お父さん，行っていたら，こう死体がいっぱいあったって。

李：うん，あの紗羅峰(サラボン)，昔あの日本の軍隊が空けた穴*16いっぱいありましたよ。ほんで朝行く時に，当時，今もう松林，松ないけど，当時は松いっぱい生えてましたわ。で，カラスがカアカア，カアカアよう鳴くんですよ。朝涼しいうちに，その紗羅峰(サラボン)越えて，ほんで，帰りはもう，行く時はもう，その頭の中，魚捕ることばっかりやからね。帰りはもう何もすることないから遊び半分でしょ。ほんでその紗羅峰(サラボン)の洞窟ちょっと見に行こうとか言うてね。なんか，毎日，あの，晩なったらうちの家の前ね，ジープでね，ばーっと上がっていくんですよ，紗羅峰(サラボン)の方へ。上がって行って，んで，そこで銃声しますねん，紗羅峰(サラボン)で。

ほんで，ちょっとしたら，ずーっとジープ下りてくるんですよ……。あっこで，あの，ころ，殺しと，もうそれ常識でしてん，毎晩。

――毎晩っていうのは，いつぐらいでした？　そういうのがあったのは？

李：……（間）……。だからさっき言うた，その，1年ぐらいの間，違います？

――ああ，4(サ)・3(サ)起(ム)こってから。

李：そうそうそうそう。見たらね，死体ごろごろしてます。ほんで色，変わってからね，

子ども石もって，ぴゅんと投げたら，腹のところ，ぼご，落ちたら，腹がプスッとあきますねん〈一同：「へー」〉。結局，野ざらしいうやつやね。

――それが日本軍が掘った穴ん中に？

李：そうそう，そこへみんな入れ，言うて，そこでみんな撃ち殺したん違います？　そやから，ひょっとしたら逃げてんのん，撃ったんやつもあれば。奥の方にも，もちろんあった思います。入り口で倒れたやつは，もうそこは雨風当たらんからね，入り口で。

そやから一応その形でそのまま。あの，あれ普通やったら雨風当たったら骨だけなっとんたやろうけども。一応洞窟の入り口のところやからね。こうみて私，石びゅーんと投げたら，お腹のとこ，ぽつ，「わー穴あいた」。

《家が駐屯所に》

――陸地（ユクチ）［朝鮮半島本土］から来た西北青年団（ソブクチョンニョンダン）*17だとか，そういうのご覧になりましたか？

李：西北青年団（ソブクチョンニョンダン）？……ああ，そういうの全然覚えてません。

――あの，警官の中には，そういう右翼の青年団が混じってたはずなんですけどね。民間の宿舎，家なんかをね，不法に取り上げて住んだとか。そういうのをいろいろやってたはずなんです。

李：そういうのはなかったんとちゃいますか？　田舎はあったか知らんけども。

そうそうそう。それで，一回，陸地から，どこへ回されるかわからん，一時泊まって，あの旅館でね，陸地から来た警官らが泊まってるとこへ，うちのその，裏の部屋でうちの兄貴の，あれ，確か，農業中学のあれやし，うちの親戚のね，名前もキベギいうて覚えてますねんけどもね。それが，その，警官らが駐屯してる2軒挟んだ裏っ側の家から手榴弾を投げてね〈一同：驚き〉。その旅館めがけて投げた手榴弾が，やっぱり中学生やから届かなかったんかして，いっぺん手前の家のとこで爆発してね，それで逃げ帰って（笑）。上には警官らおるんですよ。裏の，裏の部屋でね，そいつが逃げてきてね，うちの兄貴としゃべってんの見たら，「今，手榴弾投げてきた」言うてね。警官ら泊まってる旅館へね。ほんで，もう……ま……震えてるいうんかねえ。興奮しとったやろね，きっと。それ，見たことありますねん。

それから，しばらくして，こう，北朝鮮行ったとか聞きましたけどね。どういうルートで行ったか分からんけども。そやから北朝鮮で何かええ役職やってるとか，それは聞いたことありますけどね〈数名：唸る〉。

――その時は，お兄さんが下の部屋にいる時？

李：そうそう。みんな同じ連れ。そやから，たぶん，うちの兄貴も……まあ……共産かぶれはしたん見たことないけども，やっぱし，あの徳九（トック）の兄さんの息子とかね，さっき言うたみたいな，マルクスのあの本持ってる連中とかね，ああいうの言い寄ってきたら，どっちかいうと，こう，面と向かって反対はしないたちやからね。うん，そやから，付き合い程度でやってるつもりやったんが，うちの母親にしたらもう……こう，絶対，こう，死なすわけにはいかん思うたし。また田舎おった連中らは「裏切ったあ」とかいう具合になって……。

それが4・3事件（ササムサコン）なった途端に，場所がそういう場所やからいうことで，さっき言（ゆ）った陸地から警官らが入ってきたでしょ。そこへ駐屯所みたいにね。ちょうどうちの家がね，さっき言（ゆ）った桜の生える道がいったん坂になって，下がって上がるようになったとこで。

ちょうど坂のところに建って，半分は一階，後ろ半分は二階建てなんですよ。ほんで二階建ての下がまたこう二つに分かれて，一つはもの入れ，一つは部屋になってましたんけどね。その上の表側半分を駐屯所に，絶えず5人くらいの警官，そこに詰めてましたけどね。

あと，うちに警官が駐屯しているところへうちの兄が，旧軍隊のククシキの鉄砲をいらってて誤発させてね。もう鉄砲の音するからびっくりして行ってみると，うちの兄がもう，びっくりした顔して。弾飛んだんは押入れ向かってから，幸いに。で，弾が行方不明になってから。第一，警官らが子どもに鉄砲いらわすこと自体おかしいでしょ。いい加減なあれでね，ほんまに。ま，みんな退屈しているから，子ども相手に遊んどったんですよ，あれ。朝から晩まで，番しとけ，言うたら，やっぱり子どもら遊びに行ったら，ついついええカッコしたくなるんと違います？

戒厳令の時だから，晩6時かそこいらに暗くなってきたら，人通ったらあきませんやん。ほんだら鉄砲構えてから，こうずーっと暗がりを見とる横へ，私ら一緒になってね，人が向こうから来ると「止まれ」言うてね。なかなか止まらんでしょ，ほしたら「撃つぞー，撃つぞー」言うてね，それを横で見とるんですよ，ほんまに撃ちよるんかな思って。ほんで若い巡査やからね，最後までよう撃てへんねんね。で，その人が来て，あとから見たら刑事。ま，刑事やったら晩歩いてもまあええいうことやし，また「止まれ」言うて「名前誰や」て言うた時に「返事した」言うわけなんですよ。その返事，大きな声で返事したったらいいのにね，こう偉ぶってからええ加減な声で返事しとったんでしょうね。それがこっちからは聞こえへんのね。あとでもし撃っとたら，どんなになっと

んたかなあ，思ったりね。

――その警察はいつまでお宅に駐在していたんですか？　日本に来られる時は……？

李：そん時はもう。ともかく4・3事件が終わると同時になくなったんと違いますか。やっぱり戒厳令とかそういうのがあったからね。それがなくなると同時になくなったんでしょうね。だからもう，警官にしても海兵隊の連中にしても若いからね，みんな退屈でねえ。一回，農業学校で，同じ基地の敷地内だからね，たまにアホみたいな海兵隊の兵隊がおってね，生徒らたむろしているところに来てね，鉄砲の自慢するんですよ，カービン銃のね。で，自分は鉄砲うまいんやでとか言ってね。ほんで何十メートル離れた向こっ側の石っころめがけて撃つぞ言うてね，バーン撃ちよるんですよ。で当たりますねん。で当たったところ後で行ってみたら，人の墓のね碑石あるでしょ，それめがけて，あんなことやりおるねんね。本当に常識のない連中。

《暴徒と石垣》

――城内から新村には行ったりしなかったですか？

李：いや，法事とかあったら歩いてしょっちゅう行ってましたよ。そやから，暴徒らも，学生らに手出したり，年寄りに手出したりしなかった思いますよ。ただ，相手は，その，陸地から来た警官隊とかね，そういう連中や思いますねん。そやから，子どもとか，私らそういう，初め，警官相手で来いひんから，陸地から警官来て応援に回ったけども埒あかんからいうことで，最後に軍隊が入って来て。やったこというたら，山と海岸の間の村，みんな，この子ら［娘の李陽子さんたちは］，焼き払ったとか言うとったけど，焼き払ったとこ見たことありませんわ。ただ無人村にしてね，「住んだらいかん，みな海岸へ降りなさい」言うてね。で，山と……確かにね，晩になったら，その，みんな，村行ってから，山の連中がね，その援助してもろうたりして。そやから，その連中は進んでやったんか，それとも強制的にさせられたんかは分からんけども，まあ，山に協力しとったわけなんですよ。

で，それを海岸に降りなさい，いうことでね，無人村にしてしもうてね。だから，山いうたら，あの，漢拏山のふもとに昔，日本の軍隊が作った洞穴いっぱいありますやんか。そこをたぶん，私らそこ，遠足かなんかで入ったこともあるけども，そことか……。その間のあれを，みな無人にしてね。そんなんしても，子どもらはそこ，そら無人の村行ったら，何でも欲しい物あるからねえ。もう，その……暴徒が怖いとかそういう認識はほとんどなかったです。

――そこに行ってみたんですか？

李：まあ言うたら冒険心みたいな形なりますやんか。もう無人のところ行ったら，当時私らこれくらいの，あの，ナニ竹言うんかね，鳥かごつくったりね，その材料欲しさにね。

――警察が守っているんですか？

李：いやいや，守ってない。そやから，人は住んでないから，生きもんはどんどん成長するから，こっちはもうそれ追っかけてから，毎日。それで，最終的にはね，軍隊が入ってきて，毎日戦車がうちの前の坂を上っていくんですよね。ほんで戦車何台くらいかな，5，6台や思うわ。あの，陸地からあれ運んできて，港に揚げた時から私見てますけどね。で，それがその，道頭里（トドゥリ）のあの飛行場のあたりに基地があったんちゃうかな，軍隊の。そっからうちの前通って，東門通（トンムントン）上がって，見たら戦車の後ろに，これの倍くらいの荷台をね，引き連れてね，ばーっと上がって行って。

ほんで，しばらく経ったら山のほうから大砲の音がしますねんね。で，一日中大砲の音するんですよ，ボーン，ボーンて，間隔あけて。で，夕方なったらそれが戻ってきますねんや。見たらこれくらいで，これくらいの薬莢，空薬莢，後ろの荷台のとこへ山と積んでね，戻ってきて。それがもう何日も続いてましたね。それで，結局，あれまあ，言うたら徳九（トック）らと村と，あの……ま，言うたら兵糧攻めみたいなのやったんと違います？

――あの，暴徒（ボクト）が海岸の村に入って来ないように，石垣[*18]を築いたり……？

李：ああ，あれは，あれは陸地から応援来る前ですよ。そやから私ら，田舎へニワトリね，買いに行った当時やね。見たら，あの済州島，岩，石，なんぼでもあるから，これくらいのやつみな積み上げてね。で，これくらいの幅と，高さ積み上げて。ほんでその内っ側には，こう，竹を斜めに切って，ばーっと刺してあるわけね。あの，そっから飛び降りたら刺さるようにということで。それ村ごとにやっとったからね。ああこれ，よっぽど暴れてんねんな。暴れてるって，こう……当時そこら……まあ言うたら，駐屯所，派出所ですか，村ごとにあったんか，どうか，分かりませんけどね，それつくったんは。果たして村の人間やったら，あっこは村の人間でもそういうんに反対しとったんやろしね。そういう形にする，いうことは。

――張さんのご親戚の方で4・3（ササム）の被害を受けられた方はおられないのですか？

張：ないんです。

李：この人の村［禾北］はねえ，大通り（ハンギル），国道言うか一番大きな道ありますやん。そこか

ら大分下りたところですねん。ずーっと下がっている。ほかはだいたい道沿いにあるけどねえ。その道沿いにあるところは大分被害を被ったみたいやけど。しやから暴徒（ボクト）たちも，大通り（ハンギル）から離れたところにはあんまり行かなかったのと違いますか。

しやけど大通り（ハンギル）のところには，そういう，敵がおったのと違います？　敵が警官か何か知らんけれども。ほんで晩になったら襲ったりして。私は夜中に槍持って城門の番に行きましてん〈一同：驚き〉。行きましたよ。あれ中学1年か小学校6年ぐらいの時違うかな。

――どのへんにですか？

李：いや，東門（トンムン）のとこ。大人らと一緒にね，親父の代わりにね，ちょうどここで夜警回る時に年寄りの代わりに子どもら行くみたいなもんですわ。多分あれ，中学1年か2年，まさか小学生は行かせないもんなあ。やっぱり緊張感あるもんですわねえ。一応，腹決めて行かなあかんから。そやから物音，こう気（きい）つけたり。現にあの当時，夕方になるとこう，弾飛ぶの見えとったからね。

城の外から内っ側に向けてね。どこ狙ってるんか知らんけれども。

――外からっていうことは山の方から……？

李：城壁の外から済州（チェジュ）市内に向けて。で，私，学校から帰ったら，夕暮れの時になったら鉄砲の弾の光が見えるんですわ。明るい時は見えないけれど，夕暮れになってくると丸見えですよ，弾どっちに向かって飛んでいるのかいうのね。

――やっぱり音がちゃんと聞こえて，当然。

李：もちろん音聞こえますよ。火の粉がポーンって，豆鉄砲みたいな音が聞こえた思ったら，ずーっと。

紗羅峰（サラボン）には標的をつくってね。ほんで東小学校の運動場から練習用にね，大砲，一生懸命撃ってましてん。それたぶん第7師団か，師団じゃないわ連隊か，最終的に4・3（ササム）事件（サコン）収めにきた軍隊ですわね。たしか連隊やったと思う。第何連隊か覚えてないけど，連隊規模できてね，最終的に4・3（ササム）事件（サコン）のあれ収めたんでしょ？［1948年12月29日より駐屯した第2連隊のことか？］

だから初めは，私は済州（チェジュ）市のお巡りさんかと思うたけど，この前［次兄から送られた］ファックス見たら，警備隊とかいうのが一番初めで，その次にそれで収まらんから。当時からまだお巡りさんら，いてましたけどね。ちょっとこう，することないからお巡り

さんやってるような，そういう街の雰囲気でしたね，初めは。日本から引き揚げていったね，当時いうたら，パンチョッパリ［半日本人の意，日本文化に同化しかけた在日朝鮮人への蔑称］とか言うて，向こうで言われてましてん。することないから警官やってるような，そんな言われ方もしてましたね。だから一応，お巡りさん言うても，日本で言うお巡りさんじゃなしに。で，そういう人らが結局城内（ソンネ）ではお巡りさんとしておったけども，その上の刑事クラスなったら，ものすごい羽振りきかす言うんか，子どもでもそういう様子は分かりましたけどね。で，その後に陸地から，本土からね，応援にどれくらいの規模で来たんか分からんけど。それでも，あの，人数はちょっと覚えてないけど，どっか旅館1軒借り切って，そこへ泊まってるいうの聞いたことありますねん。

《朝鮮戦争》

張：なんか，鉄砲向けられたとかいうて。

李：ああ，あれは，鉄砲向けられたんは，あの，山のほうの連中に向けられたんじゃなしに，あの城内（ソンネ）の中に6・25（ユギオ）のときにみんな追い詰められて，釜山（プサン）まで追い詰められたでしょう，いったん。追い詰められた時に，もう逃げるとこないから，済州島にみな逃げましたやん*19。で，その時に海兵隊も済州島（チェジュド）来たし。

また，孤児院も済州島（チェジュド）ね。あの，戦争で親なくした子らの孤児院が，孤児院と海兵隊の基地が，うちの農業学校，占領したんですわ*20〈数名：「はあーー」〉。で，さっきこの人［張さん］が「鉄砲向けられた」いうのは，私は，うちの学校，海兵隊の基地に取られたでしょう。そんで農学校やから，中に植物がいっぱいありますやんか。そこへ基地に取られたもんやから，そこにウグイスやらメジロやら，あんなのがいっぱいなんですよ。それをこっちは取りに入りますねん，基地内へ。誰もおらんやろうな思ってから入ったんはええが，「止まれえ」言われてから［銃を］向けられてね。あの海兵隊に鉄砲向けられてから，ほら，ビビリますよ（笑）。ほんでもう，しばらく経ったら笑いもってねえ，冗談や，言うて。子ども相手やから，まさかね，そんな。そんなんやったり。

また，紗羅峰（サラボン）の裏，海水浴行った帰り，遠回りするの嫌やから，当時あそこに，なんか兵器，弾つくるあれがあったからね，軍隊の工場があったんですわ。その敷地通ったら，ものすごい近回りになるんですわ。ほんで，そこ通って近回りしよう思って入った途端に，止まれって向けられたりね。どこへ入っとるんじゃ，言われて。ま，鉄砲向けられたいうのは，それぐらいかな。

私らもう教室も何もなくなってしもうて，野外授業受けたり。講堂一つあったやつを，そこをみんな区切ってね。生徒，そこで授業受けたりして。授業受けても，隣のクラス

で授業やってんのも丸見えやし，丸聞こえの状態でね。もう講堂一つに詰められて，全生徒。他の校舎，みな孤児院なったし，海兵隊の基地なったし……。もう，それで，そのあと，結局……中学と高校に分かれたあとは，やっぱりみんな根っから畑仕事するの嫌やったと思いますよ。ほんで，おそらく生徒の数も減ったんやろね，きっと。陸地から，あの6・25，陸地から人間が流れて来たから，やっぱりなかには商売人がいっぱいおった思いますわ。そういう連中とつるんで，うちの同窓生らも国会議員なってる連中おるけども。やっぱり，そういう陸地から来た人らと手組んで，いろんな，あの，学校も，不動産もそういう形でなくなった思いますけどね……。

そやから，なんか政府が当時のこと謝るの，どうのこうの言うてるけども，私から言わしたら，地元の人間の機嫌取りやってね，もう政治家らどうしで，済州島もう……農業学校はもう，ホテル建てるにしても，地盤が岩場やから建ちやすいらしねんね。農業学校がなくなったから，済州島はもう全然愛着ありませんねん〈数名:「ふーーーん」〉(咳払い)。もう，昔の学校の形は，きれいになくなってもうてるし。

再び済州島から大阪へ

《李さんの再渡日》

――城内の外は大変だったけど，中はそんなふうに穏やかな暮らしだったということでしょうか？

李:とくにうちは，うちの親父が注文服の直しをしたり，古いのを直したり。ほんでまた，なんぼない言うても，さっき言うたみたいに刑事さんとかね，そういう妾囲うくらいやから，そういうのには金使いますやんか〈数名：「あーー」〉，そんなんやって。で，途中で，その，家半分，取り上げられたいうんですか？　ほな，うちの親父も，嫌気さしたんか，それとも商売やりにくなったんか，分かりませんけど。そら，表，警官詰めとったら，客，裏から入って階段上って親父んとこ，行かなあきませんやんか。で，やりにくなったんか，して，あの，日本，出て来てしまいましてん，父親が。あとは母親一人で息子3人おる。

――お父さん日本に行かれたのは，やはり6・25の始まる前ですか？

李：いや，その後ですわ。

――李さんはこっち来はったの，おいくつの時なんですか？

李:だから中学［第一中学校］3年卒業して。農校（ノンギョ）［農業中学校］が，農業高校と一中（イルチュン）［第一中学校］*21に分かれて。

――お父さんと一緒にですか？

李：いやいや。親父はその前や。

張：すでにこっち来てはったからね。

李：いや，向こうにおったら親父もおれへんし，お母さん一人で息子3人ね。もう……私も向こうで高校ね，行きたかったんやけど，どうみてもね，母親一人でしょ。小（ち）っちゃい母親，毎日田舎行って米買（こ）うて背負うてね，そんで持って来て市場で売ってね。それで息子，一人はまあ軍隊入ってしもてるからええけど，下の二人，その農業中学行ってる息子二人を勉強さそ，思うてね。そんなん，こっち，見てられませんやんか。ほなもう，日本では姉さん金儲けてるいうから，日本行くわ，言うたら反対しませんねん。

まあ今で言うたら密航ですわね。そやけどまだ子どもやから，船員らと渡りつけてね，船員らと一緒に漁船乗って，昼間玄界灘で。退屈やから，こっちは密航船やいうの分からんとね，船べりに出て，こう，こう波へ指さらして遊んどったらね，船員さんが笑いもってね，「あの遠くに船影見えたら中入りや」て〈一同：笑〉。何の，何かなあ，思うて。それでも見えへんからそのまま遊んでて。さすがにもう，あの船員の船室言うても，船員の寝てる部屋言うてもね，小（ち）っちゃい漁船やからエンジンのにおいするし，煙上がってくるしね。ほんで板の隙間から海水が漏れとんですよ。そやから寝たら学生服，みな染み付いてね。

下関ちょっと離れたところで，夜中着いてね。着いた，言うから，こっちは降りよか，言うたら，ほんな船底，魚詰めるとこですわね，そこ，ふた開けたとたんに，そこから人がワーッと湧き出てね。

――分からなかったんですか？　気がつきませんでした？

李：ぜんぜん知りませんでした。湧き出てもう，そこから海岸へもうみんな飛び降りていきますのや。びっくりしてもう。釜山（プサン）で船待ち1カ月しましたけど，してるあいだでもそういう様子ちっとも分からんからね。また中学卒業したてやから。

ほんで，私はその，私を連れた人と，船員と一緒に別行動とってね，何乗って下関市内入ったんか忘れたけども，この人らが泊まったところが遊郭ですねん。今はもうなくなってるけどね，赤線ね，当時の。ほんで，こっちはそんなん分からん，えらいきれい

なとこやな，思うてね。学生服はもう白うなっとるしね。そこでその人ら［船員］は，別に上，上がったんかして。そこのおばさんみたいな，まあ言うたら主人が，お兄ちゃんまだ早いね，言いながら〈一同：笑〉。ほんで，そこの人のとこで寝たんですわ。

で，あくる日その，連れてきた人らんとこ行ったら，きれいな姉さんらみんなおるしな〈数名：笑〉。顔洗う言うたら，みんなタオル持ってあとついて行っとるし，こっちはそんなん分からんし。……そやからあんまりそういう面では苦労してませんねん，私は。

――それからどうやって大阪まで来られたのですか？

李：大阪では，向こうで下関の，そこもやっぱりあの，漁船？　漁船の船員らの泊まる，何言うんかなあれは，飯場ですか？　飯場みたいなとこ預けられて。ほんで大阪の姉さんの旦那に連絡して，当時は電話かかるんやったんかな，なんか知らんけど，手紙やら何やらでやり取りして。で，迎えに来てもらって。連れて来てもらって。

――張さんは日本で生まれたのですか？

張：私はね，２歳くらいの時に日本に来たらしいです。向こう［済州島］生まれでね。だからもう全く分からないですね。

――お父さん，お母さんと一緒に？

張：いや，お父さんはもうここですでに。で，母親と一緒に君が代丸（クンデファン）[*22]？　あれに乗って。

――さっきの船の下にいた人の話は聞いたことありますけど，下にいるのを気がつかなかったというのは……〈数名：笑〉。船で何人ぐらい一緒に行きましたか？

李：ああ，ああ，もうぞろぞろ湧き出てね。もう積めるだけ詰めたんやろ，きっと。ほんでみな飛び降りて，途中で捕まったかどうか，分からんけども。私はもう，船員さんと，船員さんと一緒に。まだ子どもやからいうことで。

《白頭学院へ》

李：こっち来て，あの，一応，建国[*23]ちょっと行きましたんやけどね，白頭学院。高校部行きましたんやけど。あの，当時，ニコニコパンとかああいうのね……。兄さん，あの，「お前欲しいだけ食べ」と言われた時に，高校１年の時。パン13個食べたん，覚えてますねん〈一同：笑〉。もう，パンだけね。そんな，そういうたら食事制限されたも

んやから。

張：器械体操やってたからかな。

李：私が白頭学院入ったんもね……大阪大学入りたくってな。で，入っとんです。で，一時あっこから上った生徒もおるいうの聞いたからね。せやけども，やっぱ月謝とかそういう問題もあったしね。うちの姉さんのところが，もうあかんようになってきたし。しゃあないから夜間でも行こうかなと思うたけども，あの，当時永住権取れてなかったからね。

張：登録［外国人登録証］がなかったんです。

李：日本の学校行けなかったんです。どっか夜間でも行きたいな，思(おも)て。ある時期ほんまにねえ，頭の中に何でも入る時期がありましたわ。それこそあの，学校で授業受けて，ああこれ試験問題に出るなあと思ったら，てっきり出てきたりね（笑）。そやから，学校だけ行けたら，大阪，阪大入んの簡単やな，ぐらい思うて行ったけど，とんでもない，そんな。

張：月謝が払えなくって。

――高校出られて，働きに行かれて２年くらいお勤めに行かれたのですか？

李：高校辞めてね。高校行ったんは，えーっと１年……白頭学園ね，のちのちの外人登録をつくる時にね，その，学歴ゆうたら，２年上がって辞めたとか言うたんやけど，調べたら，１年。１年じゃなしに，何カ月しか行ってない。ということは，月謝払(はろ)うとこまでしか載ってないから。うーん。当時は月謝払わんでもええから，来い来い言うとったけどもね……。

あの，決定的に辞めた理由いうのんがね，ちょっとあの，変なことがあってね。ま，月謝払わんと学校行っとったんやけども，クラスで１回ふざけててね，担任の先生入ってきた時にね，ぱっとそれ見つかって。どういうことをやったか覚えてませんけどね……。「今，誰々，何，前出て来ーい」言うてね，ほんで見つかったんは，わしの隣の席座ってた子ですねん。で，それがね，仕方なしに出て行きもってね，私に「お前もやったやろ，お前も一緒に来いや」ってやるんですよ。私びっくりしてしまってね。ほんで，それから行って，黙ってそのままおったんです。ほんで，そいつが帰ってきた途端にそいつのほっぺたをね，ばちーん，しばいたったんですねん。もうえげつないくらいに。後で見たら担任の弟ですねん，それが〈一同：笑〉。それが，おたくら，ひょっとしたら知ってるかわからんけど，天理のね，のちのち，ホッケーの，あの先生でね。基本的に有名な先生，天理の。それの弟をあんなして，しばいてね。なんでしばいたか，

分かります？

一緒にやってても ね，自分一人ね，あの，罰受けたら済む問題ですやんか。なんでそんなん自分のね，あの，横のんまで一緒にね。一人済んだら，それでよろしいやん。これ軍隊式ですねん。これわしら済州島(チェジュド)で結局軍隊式の教育受けてるからね。そやから，あの，向こうではクラス全部ね，ま，言うたら，一つの家族，一つの部隊みたいな感覚ですよ。そやから，なんぼ中に好きなもんおっても，嫌いなもんおってもね，自分一人でね，あの，みんなの犠牲になったら，こりゃもう，カッコええもんやと思ってるもん，うん。そやから，私やりました，言うて出て行く奴もね，あかんけど，結局見つかって一人で罰受けたら，それでもう，もうしゃあない思うてるからね。

《母の再渡日と兄弟のその後》

――お父さんは，日本に来てどこにいてはったんですか？　大阪にいてはったんですか？　緑橋にいてはったんですか？

李：いや，そん時は姉さんのところへ。

張：大池橋にね。

――お母さんはいつ日本に来られたんですか？

李：私がこっちに出てきたあとにね，向こうで火事になってね，家をなくしたんですよ。ほんで一人残った弟，あの，結局あれは済州島(チェジュド)の師範学校か，先生になる学校に，農業学校，一中(イルチュン)から上がって。それで当時軍隊に入ってる兄頼ってね，ソウル行かしといて。母親だけこっち出てきて。

張：私たち結婚が決まった時にね，息子を結婚させようと思って来はった。その時に長男が結婚して，その明くる年に私たちが結婚して。

李：そん時でも，私らに国おる弟のことをね，「知らん顔するのか」言うて，どんだけ罵倒されたかね。もうともかく「向こう，ソウルで学校行かせるからお前らカネ送ったれ」言うてね。ほんで，ちょっとでも反対意見しようものなら「개 새끼(ケ セッキ)（犬畜生）」て言われますねん〈一同：笑〉。

――李さんは弟さんがおられたでしょう？　一人？

張：4人のうち三男。5人いたけど，一番上のお姉さんはお嫁行っちゃったから。

李：上の一人はこっち残って，一人は軍隊入っているでしょ。

――一番上のお兄ちゃんは？

李：今でも生きてますけどね。

張：ここにあの，猪飼野に住んでます，今でも。その人は朝鮮語もしゃべらないしね，済州島には行ったことがないから。

――そのお兄さんはずっとここにいてたんですね。日本に来た時，李さんはそこには頼らなかったのですか？

李：まあ，あの兄は，姉さんのところに世話になっとっていたから。姉さんも結局，義兄(あに)があの，言うたらそのゴム工場失敗してね，ほんでどっか布施駅前の店，何かやってましたわ。で，そこ世話なってましてん。だから兄はもう全然そういう……。

張：韓国語もしゃべれないし。

李：それ［姉の工場］が，設備過剰でね。私が中学校卒業して農校(ノンギョ)卒業して，途中で高校と中学校分かれてしまってね。一中(イルチュン)と農業高校と分かれてしまってね。一中の卒業した後で，こっち来てみたら設備過剰で止めた後でしてん。えらいとこ来てしもうた思ってね。

一番下の弟だけ得してますねん。こっちからもうあんなして，母親が犬畜生呼ばわりしもてね，カネ出させてね。それを弟のところにどんどん送ったら，あの弟は延世(ヨンセ)大学を卒業してますねん〈一同：驚き〉。

張：奨学金で行った言うてましたけどね。

李：そんで卒業してから韓国銀行のね，エライさんまでになってね。そやから向こうおった連中だけ出世して（笑）。あるいは死ぬ目に遭(お)うたかも知らんけども，一応，あんな中佐に上がると同時に退役して，ほんで退職金は何億と，向こうのカネでね。［二番目の］兄貴はああいう軍隊のあれ，恩給か何か，いやんなるほど，もらって。軍隊で，もうその時行ったきり。もう軍隊でずーっと，何して，中佐，中佐上がる時にもう退役してね。あの［江原道の］華川(ファチョン)，華川(ファチョン)ですよ。

《縫製の仕事をはじめて》

張：一番何もできなかったのはお父さん［李さん］やいうて，自分で言うからね（笑）。でも別にねえ，生活ができればそれでいいからねえ。まあ，人の２倍くらいは働いていますけれど。人が寝ている間も働いたんですから。

――じゃあお父さんの仕事と同じ縫製とか習われて。

李：それも親父に無理矢理やらされましてん。昔，職人いうたらね，下張りいうの抱えてやるんですよ。ある日その，連れてった［下張りの］女の人が，いや親父が風邪ひいたのか，それでその女の人が遊ばなあかん［仕事がなくなる］はめになったんで，私に。私は小さい時から自分の服やぶれたら，自分で縫ったりしてたから，ミシンの扱いとか慣れとったからね。私は当時，塗装工事に行ってました。

張：くにから来た時は勉強しに来たはずなのに，働かざるを得なかった。

李：そこで見込まれて，そこでそれこそ同じ仲間と将来こんなこんな工場つくって，一緒にやろうなとかって，夢がいっぱいでしてん。ほんで親父があんなして風邪ひいてから，泣きつかれたもんやから。ほんで一応，親父の代わりってその女の人のために，何したんやけど，なかなか埒あかんからもう，「親父これでもうこれで終わりにするで」言うたら，もう，どういうんかね，ああいう責任感はすごいんや。もう私に何とかしてくれ言うて泣きついて。で，今度はしまいにとうとう私にとっては塗装屋の社長まで来てね，うちの親父に「あなたの息子さん，この仕事続けさせて下さい」言うて頼んでも，うちの親父は，何にも言わんとね，布団の上に座ったまんま，返事一つしませんねん。もうこの息子，今自分助けてくれへんかったら，あの抱えた女の人ね……。

張：給料払ってましたからね。

李：悪い思うたんか，そういう親父なんですよ。私，19か，はたちの時ですねん。そら塗り屋に行くのがもう楽しくってね，給料日になったら，当時，私日給400円で行っとった時なんか，あの，給料日になったら2000円余分に入れてますねん。当時の2000円いうたら，日給400円の時の2000円いうたら相当のカネでしょ。私はもう，中学の時から軍隊式で，学校には教練なんかあるし，クラスいうたらものすごく仲間意識が強いんです，向こうは。で，職場入ってもそういう仲間意識いうものあるからね。それ見た途端にね「なぜ自分だけこんな2000円も余分に入ってんねん」言うてね。

ほんでみんな当時は給料日になったら，封筒に入れて一杯飲みもって社長が渡してくれますやんか。ほかの職人10人ぐらいこう並んでもろうて。で，私が入ってるの，「こんな余分に入ってます」いうてから社長に言うたら，社長はにこにこ笑いもってね，まあいいと（手振りを入れながら）こんなやるんですよ，取っとけ，いうて。そしたら私，反対に，そんな気持ち悪いことできへんて突き返したりね。

――塗装工場の経営者は日本人ですか？　朝鮮人ですか？

李：いやいや陸地の人やったけど。

――塗装工場はいくつくらいまで働いてはったんですか？

李：えっと，やめたんが……もうとにかく学校あきらめてから行って，２年ぐらい。21か２ぐらいやろね。

――その工場はどこにあったんですか？

李：いや，あのう，この近くですけどね。大阪は大阪やけどね。

――何の塗装ですか？

李：ミシンの頭の，ヘッドの塗装。鋳物で頭できたやつをね。あのう，トラック積んで持ってきたそれをみんな降ろして，それをヤスリかけて。そんで，あのう……字塗って，その上，ペーパーかけて。その上から，あのう，ガッカーで焼いて，塗って。最終的に，あのう，模様をね，模様をこう，何言うんか，シールみたいなやつで，こう貼って。そんで，抜けたとこを訂正したりしてね。終わったら，上から，ニス吹っかけて，それを釜に入れ，焼いて，焼き終わったやつをまた，バフがけ[*24]言うてね，あのう，して，仕上げてから納める，そういう仕事やったけどね。はじめ行ったら，まず，その鋳物運ぶのからね。仕事でしょう？　片手でこう，２台，二つ，こう持ってね。

《仕事へのプライド》

――今，縫製のお仕事は？

李:やってます。もう遊ばしてくれませんねん。今日も仕事やっとるんです〈一同:「えー，すんませんねえ」〉。いやこれもね，これも競争で始めたあれですねん。親父にね，あんなんして，あの……布団の上であんなんしてから，何にも言わんと，職変えさせられて，始めたんは。始めたらやっぱり競争なりますやんか。ほんならやっぱし同じ時間でも，ちょっとでも余計，ちょっとでもええ仕事，いう具合になってくるしね。もう，若いし，あのう，どんなに縫うていいもんや，分からんからね。ただ縫い方教えてもろて，こう縫うて，縫う尻から糸くずも切らんとぽんぽん放り投げたら，その，下は女の人がみな切ってくれんです。数なんぼでも上がりますわな。当時，一番初め，やった時なんか，そら，当時の大臣以上の水揚げ上げましたもんね。日本の政府の，大臣以上の給料。二十何万。当時，あの，ナニありましたやん？　［月給］１万3800円とか言うて，歌ありましたやろ？　あの当時にね，25万ぐらいね，水揚げしましてん。

ほんで，みんな上の人ら，私に仕事教えたがりましたわ。ほんだら，今度は教える職人どうしが喧嘩しますねん。自分の教え方が正しいどうのこうの言うてね〈一同:笑〉。

そういうのを見てくるとね，ああ，こら自分で，これね，考えてやらんなね，教えてもうたから言うて，できるもんじゃないな思うて。ほんで，自分で見たりそういうのして。

ほんで，あの，おたくら知ってはるかな。谷町いうて聞いたことあります？　今はなんやけど，当時は谷町いうところが，みんなプライドもった問屋さんでね。谷町一いうたら世界一やいう，そういうね，そういう技術的なプライド持ってましたわ。そこで一軒，あの，グレースマンKK［森田友のブランド名］，森田友［紳士服問屋の森田友株式会社］いうて，あっこ勤続10年やったら市長から表彰状もらえるくらいの会社やねんけど，そこの仕事をはじめ……何かのつながりで，前やってた人がわしに，あと継いで，あとやってくれ，言うて。辞めて継いだのがやり始めでね，二十……二十なんぼの時や，あれ。25の時か。その時分から始めて。

自立して縫製工場始めて，当時はまだ，朝鮮人の職場言うたら，安もん専門いうレッテル貼られた時期もあったからね。ああいう問屋さんの，あのう，講習会いうてから，行ったらね，ずらーっと，みんな，あのう，背広の職場が並んでるとこへ，こっちは，ブレザーとコート専門やから，一段下がってから，構えるんですよ。せやけど，言うのん聞いとったら，アホみたいなことばかっり，言ってますねん。偉い，先生，先生言うとんのがね，教えてることがね，何か，知らんけどね，バカちゃうんか思うようなね，あの先生は月給，何十万もろうとるとかいうてね……。

――それは具体的には洋服のどの？

李：縫製の方をね。生地持ってきて，それを切って縫って，プレスやって納めて，小売屋に出せるような状態にして。

――紳士服ですか？

李：紳士服。そうそうそう。やりだしたら，やっぱり，負けん気になりますねん。んで当時，あの，そこ出してる下請け工場が，20軒くらいあったかな。なんか講習会やったら親父（おや）っさん連中が20人くらい集まって，先生やいう人の前でみんな講習受けたりしとったけどね。

張：あたし配達するの〈一同：笑〉。お得意さん回り。中の仕事はしたことないんですけどね。外の外交。

――今も谷町でやってはるんですか？

李：いやいや，もう，親父なくなった途端に，私自分で谷町から取って来るのはやめて，

うちで働いてた子，工場持たしてね。そっからこっちへ，その一番難しいあれだけ，あの，一番分のいいやつだけ，言うたらね，回してくれいうことでやっとったんやけど，そいつも夜逃げしてまいおってね。ほんで，嫌気さしていったん辞めたんですよ。辞めたら，どっから聞いたんか知らんけどね，とにかくもう，やって下さい，言うて，全然知らん人から聞いてね。私の噂聞いて来たんやろね。せやから今仕事やるいうたら昼寝２時間くらいしますねん。

張：仕事切れたことがないですね，いつも忙しいし。バブル，あのう，何か，そんな時あったでしょ？　世の中の動きでも，そんな時でもね。そのかわり，お金見ないんです〈一同:笑〉。全然，儲からないんです。もう，とにかく，いかに自分の技術を売り物にって。

李：いや，いや，技術を売りもんとか，売りもんとかって，いや，そんなん違う。競争ですやんか？　そうでしょう？　別にね，あの，同じ仕事を取り合いするのにね，ちょっとだけ良かったら，回してくれるんですよ，こっちの方へ。特別，もう，ええ仕事やらんでもね，例えば，良かったら，良かったなりにみんな揃うし，悪かったら，悪いなりに一定した品物ね，揃えて。ほんで，あのう，あと責任ちゃんと持ちますいうような態度だけとって，ほんで，ちょっとだけ，こう，技術的にも，まあ，まともなんだけ納めたらね，優先的に［仕事を］回してくれますねん。

最終的にはあの問屋さん，あのう，韓国人の工場は私一人だけになりましたけどね。そこと40年近くやりましてん。あのう，洋服いうのは，あと，あとの掃除いうのんがあるんです。例えば，糸くず切ったりね，細かい，家族しか出来ないようなね。それは親父がみんなやってくれとったからね。親父が亡くなったら，そこまで私は，人を使うてまで，そこまで，出来ない。やる気ないから。ほんで，あのう，うちで雇っとった子にすら，それで辞めていきましたけど。最終的に［張さんが］職人たちにご飯炊くのに，嫌やとか何とか，言うから，私，工場離してしまいましてん。その後，平野の方へね。

張：20人くらいのね，職人の人らのご飯炊いてたんです。それで，なおかつ，また配達あるし。そのかわり，下宿屋さんにはならなかったけども，お世話はさしてもらいました。みんな，上［の階を］，寮にこしらえてね。食堂にしてね。

――谷町には問屋があって，その問屋がその布持ってきて，その縫製をされていたということですか？

李：もう，はい，ええ。そっから……工賃。

――谷町から出す工場と言うのは，こっちの東大阪あたりに多いのですか？

李:いやいや，やっぱ，近いとこで。あのう，大阪城の近辺ね。谷町の坂下がったとこに，森町いうとこがあるんで。あそこが主でしてん。そっから，猪飼野の方へ流れてきたり。それでも，最終的には枚方のほうに団地を作って，みんな向こうに行きましたけどね。

《李徳九の兄，李佐九》

――こっちに新村（シンチョン）の親睦会ってあります？

李：親睦会は，あの……，ああ何年か前まではあったけどね。最近はどうか分かりませんわ。

――そこにそういう人も来はるんですか？　4・3（サ サ ム）の時，来たような。

李：いや，私はあんまり行ってないからねえ。うん，うちの兄のことがあるからねえ。あの，行くの嫌ですねん，正直言うて。おまけにおじさんたちみんな，殺されて死んでるでしょう？　誰もおりませんやんか，親睦会いうても。しやから，あの，新村の私らの筋いうたら，その，全州李氏（チョンジュイシ）が済州島（チェジュド）渡って，長男，長男，長男でね，あの宗孫（チョンソン）言うんですか，長男の系統で最終的に新村（シンチョン）に……。

あの，この前うちのえーと，あれが最後の宗孫（チョンソン）いうて，長男の長男の筋やいうて，去年か亡くなりましたけどね。うちのお祖父さんどうしが兄弟という人がね。その息子が今，ちょっと，あのどこかおるらしいんやけども，それがまたちょっと，こっちで生まれてこっちで大きくなった子やからね。そういうの全然あと継ごうとしなくって。息子二人おったんやけども，その次男がなんとかしいや，あと継ぐような形になっているらしいんやけども。うちの兄たちも済州島（チェジュド）あんまり行きたがらないのも，それありますねん。おまえらいついつまでに殺すとかね，そういう文章書いたやつが必ずおるわけなんですよ，同じ年代で。誰が書いたか，そら分からんけどね。

それでも1回あの，うちの親の墓を持っていった時は済州島（チェジュド）行って来ましたけどね。それから行きませんよ，全然。で，うちの弟もソウルに今住んでますけども，それも年に1回，その，墓のために行くかどうか分からんけど。行っても済州（チェジュ）市泊まって，そっから［親戚の家に］泊まったりしないしね。みなあの当時のことは口に出しませんけどね，みんなこう，残ってますよ，きっと。脅した方も残ってるやろうしね。まだ子どもにも，そういうの言い伝えてるやろうし。……だからいつになったら，そら，消えるか分からんけどもね，ともかくそういう4・3（サ サ ム）事件（サコン）のことをね，親戚らの中から，ひとっ言も出てきません。どういう法事とか，そういう場所に行っても，誰々が死んだとかそういう話もね，親戚中から聞いたこともないし。みんな全然違うところから聞いてるか

ら。ましてや，うちの母親なんかはね，あれは自分の息子だけ連れてね，あの，生かして……。うちの母親はもうおそらく，裏切り女ぐらいに思われているんと違いますか？

張：親戚みんな亡くしてしまっているのにね，この家族だけ生きてるらしいんですね，4人とも。

――李さんさっきね，李佐九（イジャグ），佐九（チャグ）さんの息子さんとか，よう知ってはるて言うてましたよね？

李：私，顔も覚えてますよ。

――4・3（ササム）事件（サコン）の時に殺されてる？

李：殺されてますよ。

――殺されてるいうのはどうやって？　聞きました？　見ました？

李：いや見てないけど，殺されたいうのは聞いてるから。もう，おそらくうちのいとこら殺されるのと全く同じ，違うかな。もうあの一派皆殺しにせえ，言うて。その佐九（チャグ）いうのは，その時、漁船乗っておそらく逃げてきたんでしょ。

――佐九（チャグ）さんは逃げた？

李：日本来てますねん？　ほんで。

――会ったことあるんですか？

李：もちろん。うちの仕事も出したこともあるし，ほんであの，佐九（チャグ）だけじゃないんですよ。佐九（チャグ）やら，うちのおじさん連中ね，こっち来て，逃げて来て，こっちで総連のエライさんやって大（お）っきい顔してね。やってる連中ね，法事とか行ったらね，そらもう，自分は偉いんじゃいう顔してるけどね，わしら顔見るたんびにね，あんたらどんだけの若者をね，死なしたんや，いうようなね，そういう気しかなりませんねん。ほんまうちのいとこも，徳九（トック）があんないらんことせえへんかったらね，あんな立派な人間，いとこら死んでるわけもないしね。まあそれが感化されたんか，アホやったか分からんけどね。

張：なあお父さん，ハチザシ[*25]してた人，誰？

李：それ佐九（チャグ）やがな。

張：あ，あの人が佐九（チャグ）さん？

李：佐九（チャグ）はこっち来て，嫁さんもらって，ええ息子一人出来てましてん。それが高校生に

なって，建国か，あそこ行って，ほらあの，サッカーの選手なってね，立派な息子やったわ。男前やったし。まあ佐九（チャグ）さんがだいたい男前やったけども。母親も別嬪さんやったりするから，そらもちろん。それがある日突然，夜中に死んでしまってね。みんなもう呪われた，どうのこうの言うてるけど，私らサッカーのやりすぎちゃうんか，言うて。

張：いや私が聞いたのは，あの高校，卒業生がみな集まってふぐを食べに行って，ふぐにあたったって言うてました。

――おばさん［佐九さんの奥さん］は生きておられますか？

張：おばさんは生きてると思うよ。お父さんは亡くなってるけど。奥さんもどっかにいてはると思う。あれ何年度までだったかな？　うちとこの仕事。

《4・3とは》

李：あの咸徳（ハムドク）っていうところ知ってます？　砂浜のきれいなところ。あそこ，もう死体いっぱい埋めてますねん。しやからあの当時，夏になっても海水浴してませんよ。もう，みーんなあそこ行って［死体］埋めた，言うて。あとどうなったか知らんけど。わしゃ夏いつもあそこ通る時、気持ち悪くってねえ（苦笑）。砂がとってもきれいでね。

あの4・3事件（ササムサコン）言うたら，あの，新村（シンチョン）ももちろんなんやけど，西帰浦（ソギボ）の方でもありましたん？

――それはもちろん，はい。それは，一番そういう影響が少なかったのは，むしろ城内（ソンネ）で，そのほかの田舎のところも，いろいろなところで……。

李：全島ですよね。

――そうですね。全島的に。

張：亡くなったお義母（かあ）さんからはね，あんまり詳しくはよう，言おうとはしなかったですけども，そのいとこたちのことはよく言ってました。惜しい，ほんとに頭の切れる，ほんとに人の善悪の分かる，そういう人たちやと……。

――あの，張さんは日本にずっとおられて，4・3事件（ササムサコン）のことをどういうふうに……。

張：はい，それはお祖母ちゃんから聞いていて。あのお義母（かあ）さんからね，教えてもらった。お義母（かあ）さんから聞いてるだけでね，大変だったっていうぐらいで。あんまりそういうことは言わないです。

李：道頭（トドク），おなじCクラスやなかったけども，Aクラスか，僕が同じ学年の子で，道頭里（トドゥリ）の子ね（笑）。こっちで，私よりちょっと後からこっち出てきた子やけども……「お前，済州島思い出，楽しかったやろ」言うたら，「もうとにかく飢えた思い出しかない」言うてね。まあこっちで立派に会社起してね，ちょっと株に手出して夜逃げしよったけども（笑）。

それが，あの，道頭里（トドゥリ）で，みんな並ばされて，前，穴掘って，撃たれてそこへバンと落ちた，それを埋めたいうの見たことある，言うてましたけどね……。

＊本研究は科学研究費補助金（課題番号18530396）の助成を受けたものである。

【用語解説】

＊16　紗羅峰（サラボン）の日本軍の穴

戦争末期，「本土決戦」の要衝地とされた済州島では，日本軍の「決７号作戦」に基づいて島内各地に無数の陣地坑道が構築された。済州市を中心とする地帯には，第96師団を中心に１万人近くが配備されたが，海に面した紗羅峰（済州市健入洞，標高148mの寄生火山）には前進拠点が置かれたという。前進拠点とは，主力を傾注して防御する主抵抗陣地に敵が接近することを困難にするなどの目的で置かれる（塚崎昌之「済州島における日本軍の『本土決戦』準備」『青丘学術論集』第22集，2003年）。紗羅峰の陣地坑道については今後に本格的な調査が実施される予定であるが，南斜面に約７カ所の陣地坑道跡があると言われている。

＊17　西北青年団（ソブクチョンニョンダン）（再掲）

朝鮮北部地域の社会主義化・親日派処罰政策の進展にともない，南に逃れてきた右翼青年の反共団体。正式には「西北青年会」だが，済州島では「西北青年団」と呼ぶのが一般的である。略称は「西青（ソチョン）」。1946年11月，朝鮮北部出身者の地域別右翼青年団体を統合して結成。翌47年９月に結成された大同青年団への参加をめぐって分裂，残留派は同年９月末に再建大会を開いたが，最終的には48年12月，李承晩大統領の指示に従い，大韓青年団の結成に参加して解散した。済州島には1947年の３・１節発砲事件後に，警察補助機構として投入されはじめたが，西青のテロ行為は島民の感情を刺激し，４・３事件勃発の要因の一つになったと指摘されている。４・３事件発生後，蜂起鎮圧のために西青は追加派遣されたが，この段階では西青の団員としてだけでなく，警察や軍の構成員として赴いた者も多かった。

＊18　石垣・城壁（再掲）

４・３事件勃発後，住民には遊撃隊との連絡を遮断する目的で，集落の周囲に石垣を積むなどの強制労役が義務づけられ，完成後にはその護衛の任務を負わされた。とくに警察・右翼などの迫害を避け，漢拏山に身を隠したのち「投降」した住民たちは，「暴徒」嫌疑者として迫害され，しばしば城壁建造やその護衛などの苦役を課せられることになった。

＊19　朝鮮戦争時の陸地からの流入

朝鮮戦争が勃発すると，戦乱を避けて朝鮮半島から済州島へ避難民が流入するようになった。戦争勃発から20日ほど経った７月16日には済州・翰林・城山・和順港を通じて１万余名が済州島に入り，公共施設に分散収用された。その後も済州島への避難民は増え続けた。1951年１月３日時点で１万６千名を数え，１月15日には約８万７千名，5月20日には14万8794人に達し，済州島人口の半数を超えた。このころが避難民の人数が最も多い時期だったという。

＊20　農業学校の海兵隊と孤児院

1949年４月に創設された海兵隊は，1949年12月28日，1,200名の兵力で済州島へ進駐し，司令部を農業学校に置いて1950年２月から６月までの５カ月間，山岳地域で武装隊鎮圧作戦を展開した。朝鮮戦争が勃発すると，海兵隊司令官は済州島地区海岸司令官を兼任するようになり，海兵隊は進行中だった武装隊鎮圧作戦を中止して，済州地域戒厳軍として海岸線警備を一層厳重にした。７月から８月にわたった予備検束者の集団虐殺の指示・執行も海兵隊が担当したという。そのころ，農業学校には，陸軍第５訓練所の第５教育隊が設置され，新兵訓練が行われた。一方，海兵隊司令部も済州島で８月５日から数度にわたって海兵隊第３・４期生として新兵３千余名を募兵し，１個連隊を編成した。９月１日，彼らを連れて海兵隊は済州島から撤収し，釜山で米海兵隊と合同訓練を終えた後，９月15日の仁川上陸作戦に参加した。1950年10月31日には，海軍病院が農業学校に設置された。さらに1950年末，再び１個中隊規模の海兵隊が済州島に派遣され，翌年３月まで警察と合同で武装隊討伐作戦を遂行した。

時を同じくして1950年12月27日，ソウルの街頭で彷徨する戦争孤児１千余名が済州へ輸送され，農業学校の天幕と教室に年齢別に収容された。農業学校には，臨時に事務室・医務室・倉庫・炊事場なども準備され，翌年４月，彼らを保育するため，農業学校の運動場に韓国保育院が設立された。

＊21　済州第一中学校

（上）註＊６の「済州農業中学校」を参照のこと。

＊22　君が代丸（再掲）

解放前，尼崎汽船部という企業が，済州島と大阪を結ぶ定期航路に運航した船舶の名。1923年３月に就航した初代君が代丸が25年９月に済州島東南部で座礁したため，翌26年半ばより第二君が代丸が就航，45年４月，アメリカ軍の爆撃により大阪・安治川の千船橋付近で撃沈されるまで運航を続けた。

＊23　建国小・中・高校・幼稚園（再掲）

学校法人白頭学院の経営する民族学校。大阪市住吉区に所在。1946年３月に阪神地方の朝鮮人親睦団体・白頭同志会が，建国工業学校・建国高等女学校を開校（初代校長は李慶泰氏）。両校は1947年建国中学校に改編され，1948年に高等学校，1949年に小学校，1997年には幼稚園を併設した。1951年に文部省より学校法人白頭学院として認可を受け，学校教育法第１条に定める「学校」（いわゆる「一条校」）の資格を得た。現在「一条校」指定の民族学校は，このほかには大阪市の金剛学園（2007年８月西成区から住之江区へ移転）しかない。当初，朝連・総連系や民団系のいずれにも属さぬ独自の教育的立場を堅持していたが，1979年から韓国の国庫補助を受けるようになった。卒業生は，在日社会だけでなく南北朝鮮で活躍している。

＊24　バフがけ

工作物の仕上げ段階での光沢出しの作業。布など柔軟性のある素材でできたバフに，砥粒を付着させ，回転させながら工作物に押し当てて表面を磨く。

＊25　ハチザシ（八刺し）

紳士服の襟が着崩れしないよう襟の内部に芯を縫いつける時，特殊ミシンを使って「八」の字型に針で縫いつづる作業。